

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）6

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43782

41
9.22 中島参事官・ガノレン参事官会談

秋
まで

事務次官
外務審議官

北米局長
参事官
北米課長

有田文部大臣の沖縄訪問計画
に関する中米サハリン会議

41.9.22
米北

1. 昨21日夕刻サハリン参事官と中米参事官との電話
を由り次の通り申越した。

ある場合で顔合せは文部省商官と有田文部大
臣の沖縄訪問と有る旨話があった。同大臣の

訪沖理由は想像かつこの中米の實際に沖縄
入城の申請が提出される。米側は困難な立場

にある。昨午参事官が米側の子打合せも
ある旨、沖縄訪問と有る旨話があった。同大臣の

の場合昨午の例以上の面倒な問題となると思ふ。

ア. 7月 24日 米政府の正式申入れではない。
B. 7月 24日 米政府の正式申入れとして事を荒立てぬよう

事前の措置方を検討して欲しい。

昨21日中米参事官は山本特使局長に電話をかけた件が
実態を照会した。同日局長は日米の承知について

と23日 10月⁶日 即期に於て琉球政府の博物館
の竣工式に参列す。琉球政府(文教)より(文教)

より招待状(招待)あり。24日 文部省に取送いた
り。琉球の招待状は文部大臣 文化財保護

委員会委員長及び国史博物館の了りである。

文部省については条件は同じ positive である理由。

24日 米側は申請資料 サハリンの申入れの趣旨を伝
へた。山本局長は 文教局への招待は米側の USCAR

の了解を得るためであることは文部省からの連絡の中にも
含みつつあること。又、有田大臣の沖縄訪問は内閣政

造大臣佐藤経理の折衝で訪沖中であることと平塚工
大にもあり、同大臣にて本年年度対沖縄援助予算の

決定時期の案内は、このほかの各点ともあわせて
してであると知られている。

更に当方から、何れにせよ、半側からの案件申入れは
特急より文部省に取次いで頂きたい。又、このこと

有田大臣の文部省及び入域許可申請の両面を迅速に進
めよう旨であり、この旨を通報するに際し、山野局長は

同意した。

琉球政府は

又、同局長の訪沖は、以上のほか、1~2ヶ月以内
予定中の「青年の家」の開設に、文部次官、総理府

青年局長の依頼を招請した意向を有している。

よって、中盤省庁は、カンパニーの電話によって、以上の特急促進
の説明、特に今回の招請とUSCARの事前同意と取得

の旨を通報した。カンパニー省庁は、USCAR
に連絡し、再度、案件の承認を希望する旨を伝へ、引き続き

後、文部大臣の上述の目的で訪沖されることも、
現在の教育行政の運営構想が活発に検討されて

いる事態のもとでの文部大臣の沖縄訪問には、問題が
あることと、変更はない。但し、森長官が同構想実現

の前提として、下すものではない問題は解消するが
と笑っている。